

DoYou!
特集

おかげさまで 『DoYou!』 創刊50号

おかげさまで今号を持ちまして、みらいしんきん同友会機関誌『Do You!』は、創刊50号を迎えることができました。会員同士の情報交換メディアとして1997年8月にスタートした本誌ですが、これまでたくさんの会員の皆様をご紹介してきました。また、みらいしんきん同友会も今年で35周年を迎え、現在は27支部・約1,500名の会員数を誇る規模にまで成長しています。今回の特集は、同友会ならびにDoYou!のバックナンバーを振り返ってみました。



1976年11月の発会式の模様(現在の本店みらいホールにて)



1997年8月発行の『DoYou!』創刊号

記念号によせて

平素より大分みらい信用金庫に格別のご愛顧を賜り、厚くお礼を申し上げます。

近年、日本経済は長引く景気低迷が続けていましたが、22年度後半にかけて大企業を中心に業績が好調に転じ、景気回復の兆しが見え始めたところでした。しかし、去る3月11日に発生した東日本大震災により状況は一変しました。多くの尊い人命や社会インフラが失われたのはもちろんのこと、資材供給の途絶や原発事故による電力不足、風評被害の拡大等は、国内外の経済状況に大きな影響を及ぼしています。県内においても、特に観光業や建設業の一部において震災の影響が見られました。今こそ日本全体が一つになってこの難局を乗り越えなければならないときだと思います。

さて、当金庫お取引先の経営者で構成される『みらいしんきん同友会』は、昭和51年11月17日に発足し、まもなく35周年を迎えます。発足当時は第一次オイルショック後の経済低迷期であり、現在と同様、地場の中小企業は不況にあえいでいました。このような難局に皆で手を取り合って協力し、共に乗り切っていこうという趣旨でみらいしんきん同友会はスタートしました。

発足当初の12支部、会員数約550名から現在では27支部、約1,500名の会員を有する組織となり、各種講演会や勉強会、ならびに社員研修や若手経営者のマネジメントスクールなど、同友会会員企業のみならずの幅広いご要望にお応えする活動を展開しています。

本機関誌「DoYou!」は、同友会会員企業のみならずのお役に立つ情報交換やコミュニケーションの場としてご活用いただくために平成9年8月に創刊いたしました。以来、年間3〜4号の発行をおこない、今回50号を迎えることができました。

これからも本誌が同友会会員企業のみならずのお役に立てるよう、アンテナを高く持ち、優れた取り組みやタイムリーな情報の発信に努めてまいります。今後ともより一層のお引き立てをよろしくお願い申し上げます。

大分みらい信用金庫
理事長 関 啓二

みらいしんきん同友会ヒストリー 1976 → 2011

1976

11月17日、「別信同友会」発足。発会記念講演として、当時は『逆転の発想』で話題を呼んでいたロケット研究家の糸川英夫博士に講演を依頼した。



糸川英夫氏による記念講演会

1977

各支部単位での活動開始。本店・野口支部、南支部、鉄輪支部、亀川支部、山の手支部、湯布院支部、上人・春木支部、荘園支部、大分支部、南大分支部発足。

※いずれも現在の支部名で表記(2011年8月時点)。発足年については母体となる支部による。

以下で紹介する支部も同様。

1978

第一回同友会ゴルフコンペを開催。現在まで続いており、支部を越えた会員同士の親睦を深める機会となっている。

1979

石垣支部発足。
第一回優良企業見学旅行を開催。先進企業を視察することで、自社の経営の参考にしようとする意欲的な経営者が参加した。



第一回同友会ゴルフコンペ

1981

鶴見・扇山支部発足。

1982

別府振興シンポジウム基調講演会に西堀栄三郎氏、別信同友会共催。各支部の活動も、ますます活発化していく。



1981年、上人支部が開催した地引網大会



1979年の優良企業見学は愛媛・ヤマキ本社へ

1992

別府信用金庫と府内信用金庫が合併。日出支部発足。

1994

大分みらい信用金庫への改名とともにみらいしんきん同友会としてリスタート。

1995

高城支部、向原支部発足。

1996

東大分支部、津留支部、府内・中央支部発足。

創立20周年記念講演会開催。

経済評論家の内橋克人氏による『急変する企業環境』を開催。



20周年記念の内橋克人氏による講演会

1997

大在・坂ノ市支部、鶴崎森町支部発足。

機関誌『Do You!』創刊。

1998

滝尾支部発足。

『未来経営者スクール』スタート。

2002

中津信用金庫と佐賀関信用金庫の事業を譲り受け。県北エリアが加わる。

2003

中津北央支部、今津・如水支部、大幡・鶴居支部、高田支部、宇佐中央支部発足。



未来経営者スクールで次世代経営者を育成

2004

同友会ホームページ『e-DoYou!』スタート。

2005

せきしん支部発足。

2007

創立30周年記念事業『みらいビジネス交流会2007』開催114社が参加。

実に多かった『みらいビジネス交流会2007』



『Do You!』『e-DoYou!』で会員情報を発信



中津北央支部の発会式。県北にも会員が増加している



まちづくりの原点として位置づけ

社会福祉法人 貴船会『大観苑』を開設し、人気観光スポットの山地獄、貴船城を運営する樽谷壽生理事長は、同友会発足当初からの中心人物のひとりです。

「発足当時は第一次オイルショック後で別府の経済界に危機感が漂っており、これを打破するには地元の経営者が力をあわせていくしかないとの思いから発足しました」

これを受け、樽谷幹事の鉄輪支部が最初に取り組んだのが、鉄輪のまちづくりの基本方針策定です。これがベースになり、『鉄輪愛酎会』の焼酎販売、湯けむり俳句、町あるきなどの企画が次々と生まれていきました。まさに「地元



社会福祉法人 貴船会『大観苑』（鉄輪支部会員企業）

別府市鉄輪東8組 TEL.0977-67-8668 <http://www.daikanen.jp/>

加藤税理士事務所（府内・中央支部会員企業）

大分市生石4-1-1 TEL.097-537-7455 <http://www.oct-net.ne.jp/~katotax/>



お互いが成長していく同友会に

ビジネススクールや未来経営者スクールで、税務・経営関係の講師を務められた加藤税理士事務所の加藤公利先生。その温和人柄は高い人望を集め、同友会活動にも指針となる貴重な意見をいただいています。

「お互いが切磋琢磨してこそ、実りの多き会になるものです。たとえば代表幹事などの役職も、できる限り経験してみると、交友範囲も広がり、いろんな情報を入手でき、自らの成長にもつながります。実は私自身も、あまり人前で話すのが得意なほうではなかったのですが（笑）、今ではセミナーの講師をするまでになりました。同友会に参加して、せ

樽谷 壽生 さん

の人が主役」の、まちづくりが形成されていったのです。「最近では別府大学の篠藤明徳教授をコーディネーターに迎え、『湯けむり座談会』が開催され、活発な論議をかわしました。そこで鉄輪の宝を①湯が宝、②歴史が宝、③路地の人情が宝、と3つに集約し、そこから「まちづくり憲章」をつくることをご提案いただいたのです」

鉄輪のまちづくりの方向性をあらためて再確認した参加者は、同友会活動でも反映させていくよう努力されています。地元を愛する経営者が組織された鉄輪支部は、縁の下の力持ち的役割を担っているようです。



支部活動

貴船城で開催される観月会は名物行事です



支部活動

支部での同友会旅行も楽しみのひとつ

加藤 公利 さん

「つかく得たチャンスを、出来る限りたくさんの方に活かしてもらいたいですね」

景気回復まで、まだまだ時間がかかりそうですが、中小企業経営者としての心構えについても伺ってみました。「このような時代でも、しっかり増収増益を保っている企業もあります。いまだからこそ、計画（PLAN）をしっかり立案し、そこから練り上げた行動を実践（DO）していき、その結果を検証（CHECK）していくことが大切です」

企業経営だけでなく、まさに同友会活動にも当てはまるアドバイスをいただきました。

地域の人たちが結束するきっかけに

別府の焼肉バイキング店としては元祖的存在として知られる『焼肉ぶんご』を運営する有限会社 肉のぶんご。同社の鈴木道憲代表取締役も、忙しいなか積極的に同友会活動に尽力していただいています。

「実はみらいしんきん石垣支店と『焼肉ぶんご』のオープンは同じ年なんです。その縁もあって、今日まで常任幹事なども何回かお引き受けしています」

会員数を100名近くとなる石垣支部は、規模的にも3番目。それにも関わらず、イベントや会合の出席率が高いことも注目です。



支部活動

地元の人で賑わうチャリティバザーの様子



支部活動

県北3支部による合同講演会も実施

会員の創意工夫を結集した活動に

自動車部品の組立・塗装を手がける株式会社ファインコーティングで、その経営手腕をふるう渡辺誠二代表取締役。自動車用部品の製作に不可欠な自動機・治工具の設計製作において、高精度の製品づくりで高い評価を得ている株式会社東九州精工の会長も兼務しています。もともと東九州精工は漁業用エンジンと農機具を主体に、戦後まもない頃に創業。父親の急死により26歳で代表を引き継ぎ、いち早く自動車メーカーへの営業開拓に着手したといいます。その結果、現在の自動車製造2次メーカーとしての経営基盤を確立しています。

鈴木 道憲 さん

「会員などが率先して活動している姿を知り、新規会員になりたいという問い合わせが多いようです。各種行事への参加意識が高く、『今年はいつやるのか?』と、待ち望んでむ声が聞こえてくるのはうれしいですね」

地域イベントに積極的な石垣支部ですが、なかでも人気が毎年秋に開催されるチャリティーバザーと焼肉大会。その参加人数は約130名にものぼり、当日の益金は社会福祉協議会へ寄付しています。「芸達者の会員が多いですからね（笑）」と鈴木社長。会員同士が楽しく参加できる雰囲気も、同友会が発展していく秘訣のようです。



有限会社 肉のぶんご（石垣支部会員企業）

別府市新港町4-15（焼肉ぶんご） TEL.0977-21-0780

株式会社 ファインコーティング（今津・如水支部会員企業）

宇佐市大字下高家212-12 TEL.0978-33-4043



渡辺 誠二 さん

新しくスタートしたみらいしんきん同友会でも渡辺社長は精力的に貢献していただいております。先見性のある考え方は、県北エリアの活動を支える大きな力となっています。

「同友会の発展は、企業の発展であり、それが地域の発展にもつながってくるものと信じています。会員同士、腹を割って語り合い生み出された創意工夫が、常に反映される活動にしていけば、ますます充実した会になると思います」

「参加してよかったと思える同友会にしたい」と語る渡辺社長の思いは、その支部活動に順次現れているようです。

バック・トゥ・ザ・DoYou!

特集企画を振り返る

本誌特集企画では、時代に応じた様々なテーマで同友会会員企業を紹介してきました。そこには市販の経済誌にはない、地方の中小企業ならではの身近な事例や先進的な取り組みがレポートされています。過去の人気企画をいくつかピックアップしてみました。なお、特集企画は『e-DoYou!』でも紹介していますので、ぜひご覧ください。

『e-Do You! リポート』のページで過去の特集記事を紹介しています。
<http://www.e-doyou.jp/special.html>

なお、vol.28以前は、大分みらい信用金庫の「会員組織」コンテンツでPDF方式でのダウンロードとなります。
<http://www.oitamirai.co.jp/soshiki/doyou/index.html>



vol.2

発行
1997年10月

特集

「おはよう! 拝見」

1日のスタートとなる朝礼は重要な役割を担います。会員企業の朝礼時間にお邪魔して、個性あふれる内容をレポート。朝礼スピーチ等についても紹介しました。



特集

「好評です! 我が社のヒット商品・サービス」

限られた資源でヒット商品・サービスを生み出すことは大きな課題です。各社のヒット商品・サービスの誕生秘話を紹介することで、商品開発のヒントを掴んでいただきたいと組んだ企画です。

vol.27

発行
2004年2月



特集

「経営者がすすめる一冊」

会員による推薦図書をご紹介。『戦略の本質』(和田勲生著・ダイヤモンド社)、『スーパーおやじの痛快まちづくり』(安井潤一郎著・講談社)など、経営者の皆さんの人となりがわかる多彩な本が揃いました。

vol.10

発行
1999年11月

vol.31

発行
2005年2月

特集

「今こそ見直そう我が社の経営理念」

企業活動の原点である経営理念について考えてみました。経営環境が激変するいま、経営理念の在り方を再認識することを提案した企画です。



vol.20

発行
2002年5月

特集

「パート・アルバイトの戦略化を考える」

労働市場の流動化、就労形態の多様化に伴い、パート・アルバイトのウェイトが高まっている点に着目。正社員に負けないほどの戦力になっている企業をレポートしました。



特集

「人財の育て方」

「企業づくりは人づくり」という言葉もあるように、企業は「人」で成り立っています。人材を「人財」へ、いかにして育てあげていべきか、各社の具体的な事例を紹介していきました。

vol.32

発行
2005年6月



特集

「女性経営者に学ぶ」

女性の自立が話題になり、女性起業家も増えてきた昨今、女性経営者たちのインタビューを実施しました。女性たちが展開する、しなやかな経営戦略にヒントを得た方も多かったようです。

vol.22

発行
2002年11月

vol.41

発行
2008年7月

特集

「5Sが企業を変える!」

日本発の経営手法として海外からも注目を浴びている『5S活動』を展開している企業にスポットをあてました。様々な業種にわたる事例紹介は、非常に参考になったと好評でした。



未来経営者スクール 卒業生miniインタビュー

未来を担う経営者たちの誓い

1998年より開講している次世代経営者を育てる『未来経営者スクール』卒業生の皆さんにお話を伺ってきました。

『ビジネス交流会 未来革新塾』で“志”をつなぐ

大分空港売店で人気のバウムクーヘン『木こりのこしかけ』の製造会社、有限会社トゥエンティーワン・ハシモトを営む橋本良夫代表取締役。もともと大手菓子店、石村萬盛堂(本社:福岡市)の営業開拓の大分県担当からフランチャイズ店独立に至ったもの。『いしむら』の屋号で大分市に高城店と米良店の2店舗を展開しています。「未来経営者スクールの同期で、創業者は自分だけ。しかし、そこから学ぶことも多く、せっかく知り合った縁を

有限会社 トゥエンティーワン・ハシモト
(荘園支部会員)
代表取締役 橋本良夫さん
(第6期生)



大分市下郡北3丁目25
(いしむら米良店)
TEL.097-554-8495



引き続き広げていこうと有志により結成されたのが『ビジネス交流会 未来革新塾』です。勉強会を開催する一環として、最初はみらいしんさんの理事長を囲んで話を聞くことからスタートしました」

別府、大分、中津、豊後高田と、普段は別々の地域で活躍する経営者たちは、年4回を基本に集まり情報交換と親睦を重ねている模様。今年も、みらいしんさんの役員を交えた勉強会を実施したばかりです。

「直接、役員の皆さんと接する機会がないので、非常にトクした気分です(笑)。この会で学んだことを自らの経営に反映させ、切磋琢磨していければと思っています」

現在会員数は15名。他の若手経営者の会との交流も図っていききたいと望んでいます。

社会人として、企業人として、それぞれの在り方を学ぶ

大分市賀来の医大通り沿いで、大分県唯一のヤマハオートバイ専門店としてバイク愛好家に親しまれているYSP大分。整備歴30年以上のベテラン整備士である父親の河野一成代表取締役会長とともに、会社の舵取りをするのが河野成久取締役社長。モトクロスの国際A級で表彰台にあがった経歴を持つ河野社長は勉強熱心としても知られ、第9期、第12期のスクール生として参加いただきました。

有限会社 ワイエスピ南大分
(南大分支部会員)
取締役社長 河野成久さん
(第9・12期生)



大分市賀来北2-1-1
TEL.097-549-3650
<http://www.ysp-oita.com/>



「2007年に社長へ就任したのですが、学校を卒業してから、そのまま家業へ進んだこともあり、一般企業での社会人経験は皆無でした。未来経営者スクールでは講義内容はもちろん、異業種交流としても役立ちました」

現在の社員数はパートも含めて11名。社長になり、現場での仕事に加え、全体をプロデュースする立場になったことを実感したといいます。

「会社や仕事に対する社員個々の意識には差があるものですが、出来る限り全社員で目標を共有していきながら、企業組織を強固なものにしていきたい」

夢は「YSP大分の“企業としての完成形”を見ること」と話す河野社長。夢に向かって、まっすぐ前進していく決意が伝わってくるようでした。

スクールへの参加で視点をリニューアル

西日本電線の協力会社として、非鉄金属のスクラップ処理をする産業廃棄物業者である有限会社黒川工業。同社専務から代表取締役社長へと今年3月に就任した女性経営者が中嶋恵美さんです。

「学校卒業後に歯科衛生士として勤務した後、結婚後は専業主婦だったのですが、家業である黒川工業でパート勤務等の経験を経て、今に至っています」

未来経営者スクールで学ぶようになったのは、専務

有限会社 黒川工業
(向原支部会員)
代表取締役社長 中嶋恵美さん
(第11・12期生)



大分市緑が丘4丁目31-12
TEL.097-542-4656



時代。向原支部から声をかけられ、通いはじめました。「中小零細企業である当社が、企業としての存在価値を高めるにはどうあるべきか考えていたタイミングであり、おおいに意義がありました。普段は考えたことのないテーマの課題を与えられたり、違う業種の皆さんとお話をしたりと、自分にとっては新鮮なことばかりでした」

卒業後は、さっそく社員が仕事にやりがいを感じるための取り組みに着手。目標を数値化することで組織としての方向を全社的に共有し、その成果を評価する仕組みを導入しようとしています。

「経営者も正社員もパートさんも、会社から必要とされる人材になることが重要」と話す中嶋社長。経営者としての視点をリニューアルできたようです。

仕事に対するプライドを全社的に共有していきたい

プラスチック関連製品の製造業者として宇佐市に本社・工場がある宇佐ポリマー株式会社。夏場の菓子店で子どもたちに人気の清涼飲料水「棒ジュース」のポリエチレン素材の容器や、ホテルなどで使われている歯磨きチューブ、農業や園芸用品として使われる育苗ポリポットなどを主力商品としており、同社製品は広島以西から沖縄まで流通しています。

大学卒業後、菓子卸の長崎支店の営業マンとして

宇佐ポリマー 株式会社
(宇佐中央支部会員)
取締役 藤林 鋭光さん
(第11・13期生)



宇佐市大字上元重192
TEL.0978-32-2992



就職していた藤林鋭光取締役が帰郷し、同社で勤務しはじめたのは2006年。当初から工場責任者としての任務を持たされ、現在は工場長として、若手社員の育成にあたっています。

「未来経営者スクールへは2期参加しました。工場勤務で異業種どころか外部の方々との接点もあまりないので、いい機会になりました」

スクールに参加して、企業としてあるべき姿を考えるようになったという藤林取締役。

「皆さん、プライドを持って仕事にのぞんでいることに刺激を受けました。宇佐ポリマーが企業として出来る事を再確認し、今後の展開に結びつけていきたい」

宇佐ポリマーの“新しい風”に期待しましょう。